

陶芸

Ceramics Arts

陶芸の魅力は、粘土という自然素材によって形作られたものが、「窯で焼く」ことにより、想像を上回る魅力的な作品に生まれ変わることです。粘土は様々な形に加工することができ、高温で焼くことで、あらゆる形、質感、色を表現することも可能です。作品の表面にかける「釉薬」は、化学反応によって時に宝石のような美しい輝きを生み出します。現在、芸術のジャンルとして、純粋に創ることや観ることを楽しむ作品として発展しています。

陶芸専攻では、ロクロ・手びねり、絵付けなどの装飾実習、釉薬・焼成実習などを行い、生活を豊かに彩る食器から大型の造形作品まで幅広く学習します。陶芸制作を通して粘り強く制作に取り組み姿勢、デザイン力、そしてしなやかな感性を育みます。



染織

Textiles

染織はあらゆる時代・地域の人々の生活の中に存在し、歴史・文化の中で様々な品が生み出されています。先人の知恵や工夫が詰まった伝統技法や高い技術、染料の発色の鮮やかさを活かした豊かな色彩表現、繊維素材の触感や風合いの面白さなど、多様な角度からその良さを感じ取ることが出来ます。このため、芸術作品として様々な形態に展開することが可能です。

染織専攻では、布に染料で絵柄や図案を染付ける「染め」と経糸(たていと)緯糸(よこいと)を交差させて布そのものを作る「織り」の二つの分野に取り組みます。「染め」分野では、型染、ろうけつ染などの技法を用いて和服、パネル作品等を制作し、染料を用いた絵画表現の構想力を養います。「織り」分野では、京都の伝統的な手織機を用い、縞織のタペストリー、帯の制作を通じて製織技術を身につけるとともに、糸の色合いの美しさや手触りを豊かに感じ、表現する力を養います。



デザイン

Design

デザインには人々の生活を豊かにし、社会を変える力があります。その表現は多様であり、あらゆるところに活かされています。デザインの力や考えにより生活は美しく彩られ、豊かで創造的な社会のため、すべての人に役に立っていると言えます。

デザイン専攻では、イラストレーション、アニメーション、実写映像、ヴィジュアル・プロダクトデザイン、3D立体造型など、手書き・手作りの創作からコンピュータを駆使したデジタルメディアによる表現まで幅広く取り組みます。また、地域や社会と連携し、依頼主が抱える課題解決を試みる授業など、実践的な学習活動を行います。人々や社会に貢献する「意義あるデザイン」と「デザイン思考」を養い、社会をより良く変革する力を身につけます。



ファッション アート Fashion Art

私達にとって身近なものである衣服は、寒暖や危険から身を守るなど機能的に用いられるだけではなく、立場や役割を示すために身に着けることや、その人の個性や感性、メッセージなどを豊かに表現する方法としても存在しています。

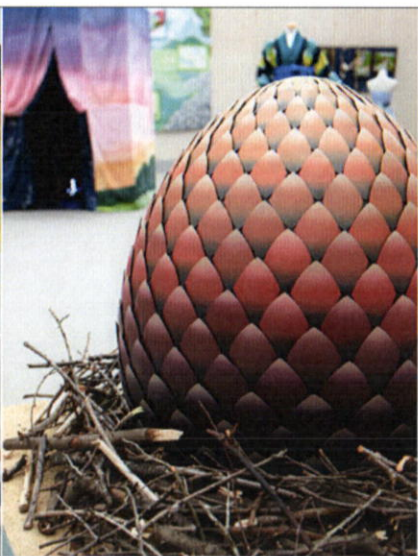
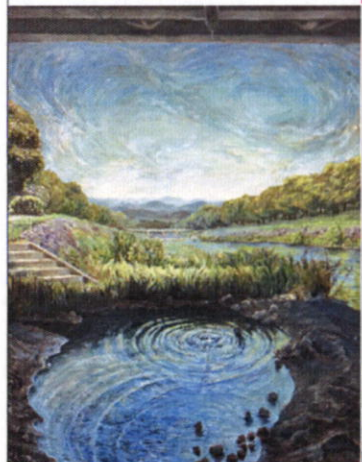
ファッションアート専攻では、ファッションをアートの一分野としてとらえ、衣服制作のための縫製や製図技法を学ぶとともに、基礎的な造形感覚やデザイン知識を習得します。また、繊維以外の素材研究や作品の展示による空間表現を体験し、様々な領域に創作イメージを展開し作品を作る力を育てることを目指します。





美工 作品展

「美工作品展」は制作の集大成として1年生から3年生までが作品を発表する展覧会です。



ART EXHIBITION



後期 作品展

3年アートフロンティアコースの生徒が、3年次後期に各専攻で制作した作品を発表する展覧会です。



Students interview

在校生インタビュー

Let's enjoy school life!

美術を通して 自分自身を知る



Ikeguchi Ayumu
池口 歩
1年

私が銅駝の受験を決めたのは中学3年生の秋です。オープンスクールで見た高校生たちの美術に積極的な姿に、イラストを描くことが好きだった私の心は、普通科への進学からグイッと引き寄せられました。受験準備には遅いスタート、実技試験も不安でしたが親の理解と応援もあってがんばりました。

入学後は興味程度だった自分の絵の世界が、知識や技法はもちろん、材料や道具などすべて専門的な指導や環境によって広げられ、自由に描ける楽しさを知りました。銅駝は美術そのものを学ぶと同時に、美術を通して自分を見つめ直せるところでもあります。自分の欠点や長所に気づき、人として伸びるチャンスがあり、やりたいことに挑戦できる、それが銅駝の魅力です。

世の中には一目瞭然と美術の知識や技術ありきの仕事もあり

ますが、直接的でなくても実は美術の力が活かされている仕事は世の中にたくさんある。美術の世界は幅広いことを本校で学びました。私も将来はまったく異なる分野に進むかもしれませんが、どこかに美術を活かせる仕事に就きたいと思っています。

中学生または保護者の方は「美術高校」は将来的に不安があるかもしれません。銅駝には不安以上のやりがい、楽しいこと、自分を輝かせることを見つめるチャンスがあります。考え過ぎず、行きたいと心が動いたらぜひトライしてください。

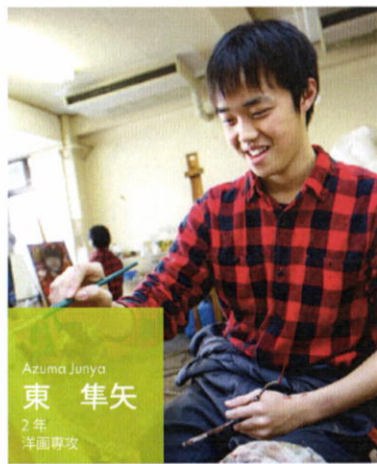


積極的に チャレンジする自分に

絵を描くことが好きで、公募展などでもよく入賞していたので、親が銅駝への進学を勧めてくれたことが入学のきっかけです。中学1年生の後半から画塾に通い、オープンスクールの洋画にも何度も参加しました。実際に入ってみて感じる銅駝の印象は「濃い」の一言。生徒は個性的で、やっていることも専門性が高く、授業も濃密なので中学時代にはまったく想像のつかない世界です。できればもう少し男子生徒が多いといいのですが(笑)。

私は車が大好きでカーデザイナーが夢です。ここで勉強することで、より広い分野のデザインに興味を持ち、今はグラフィックデザインの世界へ進みたいと考えています。絵を描くことが好きなので、今は洋画を学び画材の種類や、美術の歴史について学ぶなど、興味が尽きません。

中学時代はおとなしいタイプでしたが、銅駝でやりたいことがたくさんみつかり、なんでもやってみようと思えるようになりました。自由な校風で、何ことにも挑戦する雰囲気に触れられたのだと感じています。



Azuma Junya
東 隼矢
2年
洋画専攻



人とのコミュニケーション能力もアップし、みんなと協力して何かを作ることの楽しさ、相手に伝える面白さも美術を通して学びました。いろんな生徒がいて、だれもがその存在を認められている、多様性のある学校それが銅駝の魅力です。

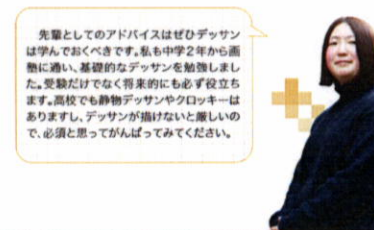
デッサンに始まり デッサンに尽きる



Kawasumi Akie
川西朗苗
3年
アートフロンティアコース
日本画専攻

中学生の夏休みに、銅駝のオープンスクール「わくわくART!」の日本画とデザインを体験したことがきっかけで、中学2年の頃から画塾などに通い始めました。学校説明会・授業見学会で8つの専攻を見ましたが、専門性の高い授業で大学のような雰囲気を感じ、美術に没頭する生徒の姿もカッコいいなと感じました。

同校で一歩身につけたのは「集中力」。写生や日本画などで培われ、呼ばれていても気づかないほどの集中力は中学時代にはなかったものです。3年生で専攻したアートフロンティアコースには私立の美大志望者が多く、美術系の就職希望者や専門学校など自分の専攻以外の人達との出会いでいろんな刺激を受けることができました。普通科と大きく異なる点は、一般的なクラス(ホームルーム)と、自分の専攻クラスの2体制で過ごすこと。ホームルームはいろいろな専攻の生徒の集まりで、それも刺激になります。専攻クラスは同じ美術の集まりなので互いに助け合い、意見交換して高め合えます。



先輩としてのアドバイスはぜひデッサンは学んでおくべきです。私も中学2年から画塾に通い、基礎的なデッサンを勉強しました。受験だけでなく将来的にも必ず役立ちます。高校でも静物デッサンやクロッキーがありますし、デッサンが描けないと厳しいので、必須と思ってがんばってみてください。

高校の空間で 大学のように学ぶ日々

小さい頃から銅駝出身の母によく「美工作品展」へ連れて来られていたこと、好きな絵を専門的に勉強したいということから、同校への進学はごく自然な流れで決めていました。でも入学当初は美術高校という専門的な環境に不安もあり、レベルの高い生徒の多さに衝撃を受ける毎日でしたが、慣れてくると友達もできて落ち着くことができました。入学して意外だったのは、普通科のように勉強することがとても多いことです。私が特に面白かったのは1年生の各専攻を履修と並行して学べる実習時間。2年生以降は専攻が絞られるのでいろいろ体験できるのは貴重でした。

専攻のファッションは華やかなイメージですが、学術的に勉強することで奥深い世界まで知り得たことはとても良かったです。中でも自分の想いや考え、発想を語り、みんなで見え出し合う作品の制作は、他者との比較を通して良い意味で刺激になりました。

私はさらに文化祭では舞台発表責任者として大勢で作品を磨っていくことを学んだり、卒業式実行委員会で映像制作を担当したりと、積極的にチャンスをつかみ、新たな能力にも気づけたら、充実した高校生活でした。



Sakagami Satsuki
坂上桜月
3年
アートバイオコース
ファッションアート専攻



専攻の先生方は各分野のプロフェッショナルなので、高校という空間で大学のような勉強ができたと感じています。春からは筑波野美術大学という新たなステージでさらに自分の能力を伸ばしたいと思っています。

進学した卒業生の声



Yamazaki Wakako
山崎稚子さん
平成25年度卒 彫刻専攻
(京都市立西京中学校出身)
現在 東京藝術大学大学院
美術研究科 彫刻専攻 1回生

私にとって彫刻での高校生活は非常に楽しく、同じ志向を持った友人たちと切磋琢磨して過ごした日々は、何ものにも変えられないものとなっています。

高校を卒業後は、広島市立大学で専門的に彫刻を学びました。自然に囲まれた広島で、様々な考えをもった人々と出会い、経験を重ねる中で、作品が変化していくことを実感し、さらに自分自身の考え方や制作をもっと追求したい、発表したいと思うようになり、東京藝術大学大学院に進むことを決めました。

現在の研究テーマは、彫刻の歴史においては試行され尽くしたと思われる「人体彫刻」という分野において、新たな表現の可能性を模索することです。これは近代以降の彫刻家としての命題であり、多くの彫刻家がテーマとしてきたことでもあります。このテーマを研究するきっかけとなったのは高校時代です。じっくりと人体彫刻を制作し、向き合うという時間を過ごしたことから始まります。人がそこにいるという緊張感や存在感に感動し、この美しい人体をつくりたいと思うようになった。この経験は、今でも私の制作の軸となっています。

経験のみならず、どうか高校生活を振り返ってください。自分が興味を持ったことを積極的に挑戦し続けてください。期間で過ごした3年間の経験は美術に限らず、どんな道に進んでも必ず自分を変えてくれるものになります。応援しています！



Okubo Akane
大久保朱音さん
平成27年度卒 デザイン専攻
(京都市立神井中学校出身)
現在 大阪成蹊大学芸術学部
造形芸術学科表現教育コース所属
(この春より豊後地区中学美術教員の予定)

彫刻では美術を基礎から丁寧に教えていただき、また展示や学校行事などではみんなと支え合ってがんばることや、人を尊敬する大切さも知りました。豊かな人になる姿勢を学べたと感じています。現在、大学で学校現場や地域の各地でアートイベントを数多く行い、美術と人の関わりを学んでいます。彫刻のデザイン科で学んだ「プロ」を使った制作、の経験は、イベント用のチラシや装飾制作などで役立ち、きちんと学んだことで、わかりやすく伝えるデザインを意識した制作ができているのだと思います。今後、教員としても学校現場や行事の装飾を作ると思うので、学んだことを活かすことができます。

高校では経験が多かった記憶がありますが、その経験を乗り切れるためのスケジュール管理が、大学での授業やアルバイトなどの調整する習慣に結びついて感じます。どんな環境でも生きていく、「目標」がないと充実した学生生活を送れないので、「制作をがんばる」「好きなものを足す」など、小さな目標でもいいので、変えられることや打ち込めるものがあれば、充実した学生生活につながると思います。

私は高校、大学で学んだことを生かして、「美しい美術」を伝えられる教員になりたいと思っています。中学美術は得意・不得意で好き嫌い分かれる教科ですが、美術の授業で達成感を重ね、美は美術は生活の中に溢れていることを知り、好きになってほしいと思っています。2019年、平成の次の年号から私も教員生活が始まります。試行錯誤を繰り返しながら、私らしい授業・クラスづくりを行いたいです。



Osato Miko
大里真瑛子さん
平成29年度卒 日本画専攻
(京都市立東山中学校出身)
現在 京都市立芸術大学美術学部日本画専攻

15歳で専門的な世界に身を置くことに不安を覚える人はいるでしょう。特殊な環境でやっていける？ 将来は？ など。でも私は多様な時期に美術で芸術を学んで良かったと思っています。

彫刻には強い人達が集まっています。15歳で自分のしたいことを見つけ、その世界に飛び込んでいく強い心の持ち主です。目指している世界で一歩先を生きる先生方もいます。こんな人達が300人近くいて刺激し合える環境はとっても貴重じゃないでしょうか。自分もそこにいる一人だと気づいた時は、それだけで一つの自信になりました。

また、彫刻の仲間とは相手の個性を見つめて尊重するのが得意です。私は小さな頃から科学が好きでしたが、芸術の高校では彫れるかと思っていました。でも今、科学の力で芸術作品を守る保存科学に興味があり、日本画専攻の中で楽しく勉強しています。高校の時に、「科学が好き」という私の一面を「面白い」と言って褒めてくれた仲間がいたからです。

そんな素敵な環境で、私は芸術の基礎を徹底的に学びました。日本画で古板を学んでいるのですが、観察・描写・空間造形・色彩等の基礎を教わったおかげで、古板の豊かな表現に気づき、筆で描ける部分の創造できるようになりました。彫刻に多くの経験や知識があることを知り、それらを自分なりに表現できるようになりました。基礎がないと自由に描くのも難しく、今でもその少なさに上手く描けないもどかしさを感じます。しかし彫刻で教わった「基礎の学び方」で、今後心躍る芸術家へと変える気がしています。



Takahashi Mizuki
高橋美月さん
平成28年度卒 陶芸専攻
(京都市立春日丘中学校出身)
卒業後 京都造形芸術大学

私は彫刻での学校生活を通して、美術を学ぶということは、自分を表現する力を養うことに繋がると考えています。

もともと絵を描いたり、ものづくりが好きだったので彫刻に入りました。入学してから「どうしたら上手くなるだろう」とずっと考えていたことを覚えています。そのため、在学中先生や周りの上手い子を手本にして試行錯誤で探ってはデザインなどを学びながら練習していました。私の作品には個性がないんじゃないかと不安に思うこともありました。反対に「お手本に忠実に沿った作品が作れる」ということが私の強みにもなりました。彫刻を卒業後も、美術が学べる大学に進学しましたが、制作に関わる分野からには彫刻、私が中学生の頃から好きだった日本画が学べる分野に進みました。

現在は大学で論文に追われる日々ですが、美術ということもあり、ものづくりなどの実習を行う講義も多いです。ただ、大学では私のように高校も専門校を選っていたという人は少なく、「美術を他のより長く学んできたから」というプレッシャーを感じてしまうこともあります。しかし、私はむしろ自分の経験が活かせる場とプラスに捉えて、率先して物事に取り組むようにしています。

こうして、どんどん人前に出て積極的に取り組むことで、「私にはこんな強みがあるんだ」ということを、いつか実感できる機会があると思っています。それは彫刻での学校生活を通して、自分を表現する方法や力を身につけたことで、人前に出る積極性と自信を得られたのだと考えています。

Graduates Voices 活躍する 卒業生の声



Shishikura Megumi
穴倉慈さん
平成16年度卒 テキスタイルアート科
(京都市立松尾中学校出身)
現在 Catering VOLVER/Restaurant KIKI 主宰

私が高校生の頃は「料理」を生きるとは思ってもいませんでした。身体的な将来の夢もまだなく、放課後は明川で日暮れるまで友人と話し、帰り道にギャラリーで展示を見て話を聞いたり、心が動くものをひたすらに吸収する。テキスタイルの作品制作やデザインより、染物を水で洗った時の流動的な色の美しさや学校展でのクラス展などに興味がありました。しかし先生達は生徒一人ひとりの良いところを伸ばすよう指導し、劣等感をなくことなく自由に学ばせました。私が興味を持ちそうな作家や展覧会の情報、学校外の広い世界のことも教えてくれました。その頃から世界的なものではなく、身近なものを作ることに惹かれていたのかもしれません。当時は自分に合う表現方法を模索していましたが、卒業後は職作りの専門学校に行き、靴履で使っていた縫製が、舞台作品の上演会場へのケータリングを友人に誘われ、それを機に料理の道に進みました。

展覧会やイベントのパーティーフードのケータリングが専門で、味覚も感覚でも素晴らしい。食感が弾み、味が豊かで料理を目指しています。盛り付けにはテキスタイルや色彩構成の勉強で得たことが役立ち、展覧会やイベントの背景を揃えてそれに合わせたものを作ることも、彫刻での作品づくりのプロセスが通じます。

大きなことかもしれませんが、高校生の頃に憧れていたアーティストと仕事ができる機会もあり、これまで経験してきたことが全てを活かせる仕事だと感じます。困難な状況に直面しても想像力があれば乗り切れる。私にとって芸術を学ぶことは生きる術を学ぶことでした。



Aoki Kanae
青木加苗さん
平成7年度卒 洋画科
(京都市立嵯峨中学校出身)
現在 和歌山県立近代美術館学芸員

私は現在、美術館で学芸員として働いています。作品を作る側ではなく、それを研究し、世の中に紹介し、保存して、さらに未来につないでいく仕事です。高校、大学で絵を描くことを通じて美術の歴史に興味を持ち、大学院に進んで美術史を学びました。美術史とは文献や資料を半がかりに、事実を明らかにするための根拠を見つける学問です。時に西洋美術では外国語が必要ですが、高校時代に英語を習得していたので研究の進めやすかったです。彫刻の先生方とは距離が近く、授業以外のことも気軽に質問ができ、登校前には通うかたちで学ぶことができました。

専門は100年程前のドイツの美術です。自分とは違う時代、違う世界を生きた芸術家たちが、どんな情報に触れて作品を作ったのかをたどることは、作品を作ることに同じように新鮮な驚きを感じています。いかなどと書えるようになったのは実は最近で、基礎的な勉強が足りていないと悩んだこともありましたが、しかし資料の知識や作家たちと同じ視点に立てることは、私の強みだと今は感じています。

美術館では教育普及の仕事として、学校の先生たちと展覧会を通じた美術の授業を導入。子どもたちが様々なことを学べる機会も作っています。その中で、美術とは作品を作ったり、見たら、授業の科目でも、職業でもなく、この世界の面白さや不思議さを自分の目で見つけ出す営みのだと知りました。それはどんな仕事、どんな生き方にも活かせる「世界の味方」です。そのことをより多くの人に知ってもらうために、学芸員としての仕事を続けていきたいと思っています。



Kuroki Sayo
黒木紗世さん
平成19年度卒 漆芸専攻
(亀岡市立南島中学校出身)
京都市立芸術大学漆工科を経て
金沢市山内工芸工房を修了
現在 金沢市内にて制作

初めて漆に触れたのは彫刻高校でした。それまで漆の作品を見たことがなかった私にとっては未知の素材であり、とても興味を惹かれるものでした。

私は陶器を家業とする家に生まれ育ち、子どもの頃から土でものをつくったり、絵を描くことは遊びの延長で、何となく同じ道に進むのだからとあまり深く考えずに漆に没頭しました。彫刻の時は、方向性は決まっていたのですが、自分の作品や考えに自信が持てず、悩んだ時期もありました。しかし彫刻で通った友人の存在は、今でもとても大きく感じられます。漆の制作は毎日こつこつと根気のいる作業ですが、同じ素材で自分とは全く違う発想の仲間作品に、驚きや刺激をたくさんもらったと思います。また学校行事や趣味に凝める中で感じたことは、漆の道に進むことに決めました。

漆を学ぶために友人を誘って京都市立芸術大学に進み、専門的な技術や技法を学んだことで、より一層の漆の奥深さや多様性を知りました。卒業後は漆器の産地である石川島に移り住み、金沢市山内工芸工房で作家を目指して、自分の作品を磨き上げました。現在は生活の中で使うものや、漆の特殊技法の一つである掛軸を用いた作品の二方向で展示などを進めています。

「自分」を出せず作品に陥っていた頃、自分の好きなこと、やりたいことを素直に作品に表したのはい、いつもスケッチブックに描いていた落書きのような模様でした。今、無中になれることや興味は自分にとって大切です。内にしまひます。外へ発信していくことも卒業へと繋がる一歩となるかもしれません。



School Life



美術見学旅行

1年生で2泊3日の美術見学旅行を実施しています。「総合的な探究の時間」の学びと関連づけながら芸術分野について鑑賞や見学を通して幅広く学び、美術・工芸・デザイン領域の視野・見識を広げることが目指します。

普段なかなか見ることのできない遠方の美術館・博物館や屋内外のアートプロジェクトなどの作品鑑賞する特別な機会です。また、HR活動やグループ活動も取り入れ、自主性や協調性を養い、互いの親睦を深めています。



課題解決型学習

京都市交通局と連携したアート制作

京都市交通局からの課題提案を受け、アートフロンティアコースの「探究F」で市バスの車内広告スペースにアート作品を制作しました。また、3年デザイン専攻の「実習」で地下鉄の魅力向上のデザインを企画・提案し、スタンブラリーやグッズデザインなどが実現しました。



京都ライトハウスと連携したユニバーサルデザイン提案

2年ファッションアート専攻で、ファッション分野でのユニバーサルデザインの課題研究として、京都ライトハウスを訪ねし施設の見学や視覚障害者からお話を聞くことを通じて新しい提案を考えました。今年度は京都府立盲学校高等部の生徒の皆さんとも交流し、ファッションについて考えました。



寺町商店街と連携したデザイン提案

2年デザイン専攻の「実習」で、由緒ある老舗や新築の新店舗が軒を連ねる地元の寺町商店街へ出かけ、店の歴史や商品コンセプトを調査し、商品を入れる箱や包装紙、紙袋などのパッケージデザインを提案しました。



老人介護施設と連携したアートワークショップ

3年「表現演習F」講座で、美術と社会の関わりについての課題研究として、老人介護施設の入所者にアートを楽しんでもらうを計画を立て、画材の検討、道具の製作などを事前に行い、施設を訪ねてワークショップを行いました。これまで東山サトリウムや京都市御池老人デイサービスセンターで行っています。



ヨーロッパ美術研修

ヨーロッパに本校2年生代表生徒を派遣し、春休みの時期に約1週間研修滞在します。京都バズライオンズクラブ様のご支援のもと、20年以上続いています。昨年度はイタリア・フィレンツェ及びフランス・パリの2国2都市を訪ねました。現地の国立美術学校との交流や、生徒が主体となって計画する世界最高峰の芸術と出会う美術巡り、最先端のデザイン・ファッションにも触れ、海外研修の体験は創作活動や進路実現に大きな刺激となっています。



国際交流

台湾の僑泰高級中学との交流

台湾の僑泰高級中学のデザインを学ぶ生徒・先生が来校され、本校の実習室の見学、本校教員や生徒からの専攻紹介、生徒ボランティアスタッフによる学校紹介と楽しい交流会を行いました。言葉の違いを超えて、アートでつながる高校生交流となりました。



学校間交流

宮城県宮城野高校美術科との交流

東日本大震災発生後、アートによる震災復興支援の取り組みをきっかけに、宮城県宮城野高校美術科との交流が始まりました。夏季休暇中に本校の代表生徒を宮城県に派遣し、宮城野高校の訪問や仮設住宅でのワークショップ、秋には宮城野高校美術科の生徒が修学旅行中に本校を訪ねし、美工作品見学と生徒交流会を行っています。



ボランティア活動

震災復興支援活動 アートを通じたボランティア活動

東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震などの災害復興支援として、生徒オリジナルイラストの缶バッジをプレゼントしながら募金活動を行いました。また、こどもみらい館のイベントでお子さんを対象にした似顔絵コーナーを毎年担当しています。今年度は御所東コミュニティ委員会との共同で小学生対象のアートによるワークショップも行いました。



部活動

【文化部】演劇部・フォークソング部・映画研究部・漫画研究部・粘土部・全制作部・写真部・異文化研究部・園芸部・合唱部
【運動部】バレーボール部・バスケットボール部・フットサル部・ワンダーフォーゲル部・ダンス部・バドミントン部・陸上競技同好会・ストリートパフォーマンス同好会
(2018年度末現在)

沿革 History



本校が、京都御苑内に「京都府立学校」として創立したのは1880年(明治13年)。太政大臣三条実美公は、「日本最初京都府立学校」と命名。その後京都市立学校、美術工芸学校と改称し、日本画から出発した専門内容も洋画を加え絵画科、さらに工芸図案科ができました。



1901年(明治34年)からは、京都市立美術工芸学校と改称。絵画、図案、彫刻、漆金の4科となり、明治末年には美術工芸学校の上級教育機関として絵画専門学校(現在の京都市立芸術大学美術学部)が創立しました。

大正末年には東山七条日吉町に移転。絵画・図案・彫刻・漆工・建築の5科となりました。

戦後、新制高等学校が発足した際、京都市立美術高等学校となりましたが、1949年(昭和24年)には総合制のもとで、京都市立日吉ヶ丘高等学校の美術課程となり、日本画・西洋画・図案・彫刻・漆工の5科が置かれ、後に陶芸科、服飾科が設置されました。

創立100周年にあたる1980年(昭和55年)には、現校地、旧網走中学校跡地に京都市立網走美術工芸高等学校として独立開校し、染織科を新設して6科となりました。本館の建物は昭和初期、当時の網走尋常小学校が増改築された当時の姿を残しています。実習棟はこの時に新築、記念館は創立110周年の時に新築されました。

創立124年にあたる2004年(平成16年)に、美術工芸科1科として入学し2年次より日本画、洋画、彫刻、漆工、陶芸、染織、デザイン、ファッションアート8専攻に分かれて専門美術を学ぶ教育システムに改編しました。

2017年(平成29年)3月に、「京都市立芸術大学移転整備計画」が決定され、2023年には京都市立芸術大学が京都府京都市東区へ移転されることにあわせて、本校も同地域へ新築移転することとなりました。

本校出身の文化勲章受章者

竹内栖鳳・西山翠峰・上村松園・上村松篁・堂本印象・
福田平八郎・加山又造・草間彌生

設備紹介 Facility



展示室



アクティブラーニングルーム



コンピュータールーム



画材店



マルチホール



図書室

美工を目指す中学生たちへ

見学・体験、本校をもっと知って実技と学科の試験をクリア!

入学者選抜について

■入学者選抜について

- ◆選抜方式は、京都市・乙訓地域公立高校「前期選抜」C方式です。検査内容は実技検査と学力検査、面接で、これに中学校からの報告書を加えて選抜し、定員の100%を決定します。
- ◆他府県から志願できるかどうかについては中学校を通して京都市教育委員会まで問い合わせてください。

実技検査…「鉛筆デッサン」「イメージ表現」

「鉛筆デッサン」では、基本的な色や形、ものの大きさの違い、適切な構図により立体感と固有色の表現ができるかがポイントで、基本的な形体のモチーフを出題します。
「イメージ表現」では、モチーフと「言葉」の組合せから自由に発想し、その世界をイメージ豊かに表すとともに、そのイメージに基づいた画面構成を工夫し、美しい色彩で表現できるかがポイントとなります。

学力検査…「国語」「数学」「英語」

入学後の進路を保障する上でもしっかりとした学力が必要です。内容は京都市公立高等学校前期選抜の学力検査に準じた独自問題です。

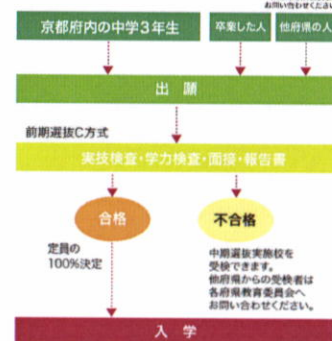
面接

5人前後でのグループ面接です。1グループ20分程度で実施します。

中学校からの報告書

中学校3年間の報告書が加わります。

入学者選抜の流れ



鉛筆デッサン 過去5年間の 出題	年度 120分・四つ切り画用紙 27 プラスチック容器1(円筒形)・フランスパン1/2 28 糸玉ねじ・発泡スチロール製ブロック 29 紙箱(茶色)・カプラー 30 ペール缶・ズッキーニ 31 プラスチックボトル・香ばしアクリル
イメージ表現 過去4年間の 出題	年度 120分・八つ切り画用紙 27 モチーフ：砂時計 / 言葉「夢」 28 モチーフ：ファスナー / 言葉「不思議」 29 モチーフ：ガラス小瓶 / 言葉「旅」 30 モチーフ：はさみ / 言葉「遊び」 31 モチーフ：計算スプーン(3本組) / 言葉「楽しみ」

学費は?

諸経費は各期ごとに納めていただきます。諸経費には旅行積立金、生徒会費、PTA会費、模擬試験費用等が含まれます。1年次の実習関係費は諸費に含まれていますが、2・3年次には各専攻分野ごとに実習費(金額は分野によって異なります)やiPadを活用した授業に伴う費用がかかります。この他、旅の具などは制作に応じて個人負担です。授業料は保護者等の「市町村民税所得割額」が304,200円未満の場合は高等学校等就学支援金が支給され、納入は不要です。また、交通通学費、京都ロータリークラブ奨学金などの奨学金制度もあります。

	入学金	諸費・会費4月納入	諸費・会費9月納入	諸費・会費2月納入	授業料	専攻分野等実習費
1年次	5,650	67,000	38,100	10,000	118,800	20,000~40,000
2年次	—	38,570	8,720	—	118,800	40,000~60,000
3年次 アートフロンティア	—	26,890	16,960	—	118,800	50,000~70,000
アートバイオニア	—	43,120	25,350	—	—	—

◆いずれも年間経費です。31年度は変更になる場合があります。